

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月30日

【評価実施概要】

事業所番号	4270102645		
法人名	医療法人 秋桜会		
事業所名	グループホーム コスモス1及2		
所在地	〒851-2211 長崎市京泊3丁目10-5 (電話)095-850-0100		
評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成20年2月13日

【情報提供票より】(H19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	14年	4月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	2	人
職員数	16 人	常勤	14人, 非常勤	2人, 常勤換算 14.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	4階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	0 円
	または1日当たり900円			

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	5 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長崎新港診療所・介護老人保健施設コスモスガーデン桜の里・こんどう整形外科・山崎歯科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、三重の新漁港の近くで周辺には大型商業施設・郵便局・銀行・小学校など賑やかで利便性の高い場所に位置する。併設で一階にデイサービスセンターがあり、ホームの入居者も顔見知りの友人がいたり、母体法人主催の行事に参加したりと、法人のバックアップを十分に生かした介護サービスの提供を積極的に展開している。元はビジネスホテルを改装して利用されていて居室は日当たりもよく外の景色も一望できる。また、冬の季節は、廊下が冷え込むため、防寒対策に努力されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善計画シートを活用し、具体的な対応策に取り組まれている。今後、さらなる取り組みの強化・継続を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回、職員が分担して自己評価に取り組まれており、管理者がまとめ上げた段階で終わってしまい、全職員の自己評価に対する意識が全体を通して明確化されていなかった。今後の取り組みに対する方法の検討、意識の統一化を望む。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	H18年9月、H19年3月以降、会議は諸事情により出来ていない。介護の質の向上を念頭に置き、構成メンバーや討議内容の検討、評価を、随時対応していくことを望む。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	H14年4月開設以後、懇親会は開催されていない。家族が主体となった家族会の発足までには至っていない。アンケートや満足度調査など具体的に意見・苦情・不安について聞き入れ、対応していく体制づくりの検討を期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事への参加、教育機関の福祉体験の受け入れなどは、積極的に行っている。今後、自治会、老人会への加入により、日常生活における連携を深めることで、地域への還元のための提供へも繋がっていくと考える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	H19年7月、これまでの理念を見直し、スタッフから地域密着型サービスを意識して「あなたの介護に対する思い」を募集し、「安心」と「あなたらしい暮らし」を真心でお手伝い！と言う新たな理念を創り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、ミーティング時に復唱したり、理念を書いたカードを携帯している。管理者同士の共有は出来ているが、職員間での共有が、今のところ十分とは言い難い。職員間に理念を念頭においたケアの差がみられる。		スタッフの中から選び出された理念であり、その実践に向けた取り組みを全職員で積極的に行うことが望ましい。今一度、理念について一人ひとりの思いを確認し意思統一を図っていくことに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事への参加、保育園・小学校との交流、福祉体験の受け入れは、積極的に行っているが、自治会・老人会の加入は今のところ検討していない。		行事への参加や教育機関との関わりのみならず、自治会・老人会の加入により、日常生活における地域の一員としての関わりを深めることで、より地域に密着し、住民から信頼を得ると考える。今後の取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、全職員で項目を分担して実施している。そのため、管理者と職員の間で意義の理解、改善への取り組みに対する思いの温度差を感じた。自己評価の作成だけに終わっているため意義と理解が十分と言えない。		自己評価・外部評価は、日々の振り返りの場面ともなる。意義の理解、具体的改善に向けた取り組みを管理者及び職員全員で同じ方向性で意識することが介護ケアの質の向上に繋がると考える。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回の開催を計画しているが、H18年9月、H19年3月以降、実施できていないのが現状である。H19年3月までで2名のメンバーが交代することになり、今後メンバー人選も検討課題である。		開催に向けたメンバーの人選や討議内容の検討、会議を活かした積極的な取り組みの強化を期待したい。

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時、電話や窓口へ出向くなどの機会はあるが、実情やケアサービスの取り組みについて、情報を共有し、共に協議していくことまでには至っていない。		推進会議で、顔見知りの関係作りが出来るため、会議以外でも研修開催などの情報の共有や、保健センターの専門職の活用など積極的な取り組みを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設当初から毎月の請求書発送時に、家族へ個別の便りを担当者が記載し報告の場としており、家族から好評を得ている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階の入口に意見箱の設置は出来ているが、実際に、意見が投函されたことがない。家族からの意見を吸い上げる配慮が今のところ十分とは言い難い。		家族アンケートや満足度調査などによる家族の思いの把握、また懇親会から更に一步進んだ家族会の発足に向けて、ホーム側のサポート体制の強化を望む。また、意見箱の設置場所の変更や、訪問された時に、何気なく聞けるようにするよう期待する。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による影響を全職員が理解しており、異動や離職を最小限度に押さえている。また、新規採用時には3ヶ月の使用期間を設け、入居者と徐々に信頼関係を作っていく取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体法人と合同で年間研修計画を作成しているが、研修参加の職員は、固定化している。		職員の段階に応じた研修内容や、開催回数・時間帯の検討を行い、より多くの研修参加を促し、介護レベルの質の向上に努めて頂きたい。又、研修後の報告会やスタッフ間の回覧などを利用して共有を期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で5ユニット保有しており、相互訪問や勉強会は積極的にやっている。グループホーム連絡協議会への参加も行っている。母体法人以外のグループホームとの交流も少しずつ進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が入居する前には、自宅へ訪問し、顔なじみの関係作りを行い、生活環境の把握を積極的に行っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>訪問時の食事中、入居者に対する会話や対応に気になる点が見受けられ、入居者と会話する風景があまり見られない。</p>		<p>職員の質に多少の差はあるように思われるが、入居者の立場に立った、共に過ごし支え合う関係作りの構築に、全職員が努めて行くことを望む。</p>
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>アセスメントシートを用いて、入居時のみでなく、適宜思いや意向を把握し、日々の介護サービス提供に役立てている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりに担当者が決まっており、中心となって本人に合った計画内容を検討し、家族ほか関係者と相談の上、計画作成担当者と共に計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回のミーティングを利用し、全職員で3ヶ月に1度のペースで、介護計画の見直しを行っている。担当のスタッフの意見も反映されている。</p>		

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出、外泊の支援は、本人家族の要望に併せて適宜支援している。医療連携体制を活用し、ホーム内での医療処置や往診など行っている。また、併設デイサービスや居宅介護支援事業所の職員の協力も積極的である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認を行い、受診介助など本人、家族の要望に合わせて、同行している。母体法人からの往診も週1回あり、医療連携を図っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問数日前に入居者が急変し、ホーム内で終末期を迎え、看取った経緯があった。重要事項の説明の中に看取りについての指針を示しているが、具体的な意思確認など、契約の取り交わしまでには至っていない。		今回の経験をもとに、重度化や終末期に向けた方針を本人、家族、かかりつけ医や職員全員で検討し、意志の確認、ケア技術の習得を強化して行くことを望む。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録物や個人情報の取り扱いについては、事務所に適切に保管出来ている。対応については、配慮に欠ける場面があり、気になった。		当ホームの理念そのものが、介護サービスの基本であり、再度全職員が理念の共有化を図り、具体的な取り組みとして、接遇に対しての質の向上に努めて頂くことに期待したい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に食事、入浴以外は決められた日課はなく、それぞれが思い思いの時間を過ごしている。		

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外部委託による食事提供のため、自分達で献立を考えたり、調理するなどの場面は少ないが、可能な限り、配膳を手伝ったり、おやつを手作りで作ったり、行事の際には食事を作ったりと、試行錯誤で取り組んでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニットごとに曜日や時間帯が決まっており、入居者もその流れに順応している。デイサービス用浴室利用も検討されている。		各ユニットで曜日をずらしてお湯を張っているため、本人の希望やタイミングに合わせて、どちらを利用しても対応可能な体制作りの検討を期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫や編み物、買い物、畑仕事など、本人の生活歴や能力を活かした支援を積極的に展開している。採れた野菜は漬け物にしたりと楽しみごとも増えている。また、食堂には興味を惹く新聞のスクラップが掲示されていた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所前の商業施設への外出や屋外への散歩を車いす対応の入居者でも、出来る限り、希望に応じるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠しており、日中は常に開錠している。また、ユニットのエレベーター前にはさりげなく、衝立が置かれ、一人で出かける際、わかりやすいよう安全面にも工夫している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て、総合避難訓練は行っているが、ホーム内での自主訓練や地域住民の参加までには至っていない。非常用持ち出し備品の準備は今のところ、対応していない。		訓練回数や内容の検討を行い、全職員がすばやく対応できるような能力を身につけておくことが、大切である。また、地域住民との協力を得て、地域への還元までも考慮した災害対策の実現化を望む。

グループホーム コスモス1及2

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、外部委託にて栄養管理はできており、食事形態などの相談は母体法人の管理栄養士の協力を得ている。又、食事量、水分量は適宜、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から要改善を求められている居室と廊下の温度差については、カーテンの使用を検討中である。共用空間である食堂兼居間は入居者が唯一集える場所であり、生活感や季節感を取り入れた工夫が必要である。		温度差は入居者のみならず、職員の健康状態にも影響する重要な改善項目であり、母体法人へも早急に対策の検討を相談し、素早い改善を望む。また、カレンダーや掲示物の工夫で温かみのある空間作りへの取り組みを期待したい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望するテレビや仏壇、好きな俳優の写真など使い慣れた物、好みを活かした居室も合ったが、持ち込みが少ない居室は寂しい印象を受けた。また、既存の建物を利用している名残が、殺風景な印象を受ける居室もあった。		居室の入口は本人の玄関と考え、表札の工夫や家族の協力を得た居心地良い居室空間の配慮に積極的に取り組まれることを望む。